



NO.423

R4年11月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

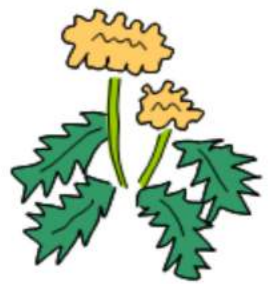
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



追悼

八月六日に氷川学園の前施設長  
西坂千賀子様が亡くなりました。福  
社の業界にとつての損失は計り知れま  
せん。

私は、六年間熊本県の研修・倫理委

員会で一緒に仕事をさせていただきました。  
講演会の企画では私たちが思い  
つかないような講師の人選をされ、い  
つも高評価を得ていました。西坂さん  
のお陰で充実した日々を過ごすことが  
できました。西坂さんのように話が上  
手で文章もうまい人を私はあまり知り  
ません。人脈も幅広く、西坂さんを慕  
う人がとても多かったです。また、最  
後の最後まで施設長としての任務を全  
うされました。尊敬します。

いつも利用者さんの話をしていた西  
坂さん。いつも笑顔だった西坂さん。  
なのに、よく喧嘩しましたね。すみま  
せん。冗談が好きだった西坂さんが一  
番喜んでくれることは何かと考えまし  
た。熊本城マラソンに出場します。ず  
ぼらな私を知っているの腹を抱えて  
笑ってくれることと思います。  
ご冥福をお祈りいたします。(今は  
これ以上書けません。いつか必ず師匠  
でありライバルであった西坂さんの追  
悼文を書かせていただきます。)

スタッフの皆様へ

理事長 松田 健



コロナ禍で色々と大変な中、三気  
の会のためにご尽力いただき感謝し  
ております。工夫しながら利用者さ  
んたちと向き合っていたいただき、あり  
がとうございます。

利用者の方はこの2年9カ月今ま  
でのパターンがすべて崩れる中であ  
りましたが大きな混乱なく過ごして  
くれていました。2年9カ月の中で  
帰宅がおよそ10回ありましたが、し  
かし、これがなかったらたいへんな  
ことになっていたと思います。親御  
さんの力は絶大であると再認識しま  
した。毎週帰宅されていた方、2週  
間に1度の方、月に1度の方などい  
ろいろおられますが、いきなり4、  
5カ月に1〜2度の帰宅となってい

まい利用者の皆様や親御さんは、ど  
れだけ苦しく、悲しい想いをされて  
いたことでしょうか。支援者として  
想いをめぐらせ、寄り添った言葉が  
けができていたでしょうか。また親  
御さんから多くのお心遣いをいただ  
きました。スタッフは、感謝の気持  
ちを持ち続けてください。

世間ではコロナ禍においてマスク  
をつけていない人の入場や利用を禁  
止しました。どうしてもマスクをは  
めることができない障がいがある方  
に対しても同じでした。理解がない  
人々の考え方を要するよう啓蒙して  
いくのも私たちの仕事ですが、同時  
に出来ない事を可能な限りできるよ  
うにするのも仕事です。週に1回の  
ローソン販売移動車の来園時マスク  
をつける練習や列に並び練習をしま  
した。帰宅した時、マスクをつける  
ようになったという声を親御さんか  
らいただきました。

それ以外にもコロナ禍の中、対策

を工夫してくださってありがとうございます。  
ございます。スタッフも利用者の皆様  
も本当に頑張りました。罹患するこ  
ともありましたが、このままコロナ  
を乗り切ってほしいと思います。終  
息の光明が見えてきたと思いたいで  
す。(現実には甘くありません)

前置きが長くなりましたが、コロ  
ナ禍における皆さんの頑張りに対し  
て特別手当を支給させていただきました  
す。職種、勤務形態に関係なく同額  
を一律にお渡しします。(10月に支  
給済みです。)理事会の承認を得て  
います。理事の方々からたくさん  
ねぎらいの言葉をいただきました。  
皆さんに感謝の意を必ず伝えてくだ  
さいとのことでした。

今後とも三気の会発展のためご尽  
力いただきますようお願い申し上げ  
ます。(三気の会のスタッフへの文  
章ですが同じ仕事をされているスタッ  
フの皆様へ捧げます。)





# 11月



## 1班 「青空の下でゆっくりと」

先日、レクレーションを行いました。午前中はドライブ、午後からは西原村の萌の里に行き、草スキーを楽しんできました。

Aさんは、ソリを見ると持っている職員に駆け寄り、あっという間に滑り出していました。楽しそうに漕がれていましたが、思うように滑らなかったのか、途中からゆっくりと下まで降りている姿を見て、思わず笑みがこぼれました。Bさんに「草スキーやってみませんか。」と尋ねると、ソリを受け取り、職員から背中を押してもらいながら楽しまれていました。少しスピードが出ると、器用に足でブレーキを掛けながらゆっくりと滑られる方や、中には、坂の真ん中で止まって、ソリを持って戻って来られる方もいました。また、他の方がソリに乗って楽しんでいる姿を眺めながら、それぞれの楽しみ方で過ごされていました。最後にワンピースの像の前で集合写真を撮りました。丘を登ったからか写真の表情に少し疲れが見えていましたが、それもひとつの思い出だと感慨深くなりました。

支援員 菅原 恵太



## 2班 「秋の訪れ」

衣替えも済んで利用者の皆さんはすっかり秋の装いになってきました。「ドライブでコスモスを見てきました」と教えて下さったり、デザートに「柿」が出たりと、三気の里でも小さな秋を所々で感じ始めています。秋といえば食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋。利用者さんとのような「秋」の時間を過ごそうかと私も日々わくわくした気持ちです。「食」に関しては、私もですが楽しみにしている方は多いのではないのでしょうか？外出が制限されている中ですが、その分担当の利用者の方とテイクアウトしたものを食べる機会も増えてきました。

先日はCさんのリクエストで4人でピザパーティーを開催。購入したものをズラリと机に並べ、お皿に盛り付ける時間でさえもいつもとはちょっと違った感じがして皆でワクワクしました。「美味しかった」「楽しかった」の声や笑顔がとても嬉しかったです。楽しい秋のひとつときを分けて貰えたような気持ちになりました。

支援員 伊藤 愛理



### 3班 「輝く眼差し」

先日、無観客での運動会が行われました。朝から、利用者さんの顔がイキイキしていて 楽しみにされているのがとても伝わってきます。

我が3班からDさんが利用者代表として、選手宣誓をされました。Dさんは朝から宣誓の言葉が書かれた紙を見て、何度も練習されていました。とても緊張されていましたが元気に選手宣誓をされました。

メインイベントと言っても良いのが、恒例のパン食い競走！！。皆さん待ちに待った種目です。1列に並びそれぞれが自分の欲しいパンを目掛けてスタートします、その時のキラキラ輝く利用者さんの眼差しをご家族の方にも是非来年こそは見ていただきたいと感じました。

運動会後のお弁当も、楽しみにしていたことの1つです。今年のお弁当もとても豪華で皆さん笑顔で美味しそうに食べられていました。そんな中で、とても美味しそうに食べられていたDさんは、「若者たちと同じように食べていたらお腹を壊すので、私はこれくらいにしておこう。」と自ら食べる量を調整されていました。運動会も昼食もご自分に無理無く出来、とても良い思い出になられたみたいです。

来年こそは、観客ありの運動会でありますように、心から願います。

支援員 藤本 身知子

### 4班 「時間」

私の祖父とのある日のこと、祖父が菓の袋を開けようとしていましたが手先が震えなかなか開きません。せっちな私が見かねて手伝おうとすると、妹が声をかけてきて首を横に振りました。その時、あっ。と思いました。「これもリハビリだよ。できなくなるのはあっという間だから。」と。

4班の利用者さんが生活する中で、どうしても時間が必要になることがあります。牛乳パックのストローを開ける、5本指靴下に指を入れて履く、など、私達にとっては「すぐ」と思っていることが利用者さんにとっては大変なこともあります。私たちは時間に追われ、良かれと思い手伝ってしまいがちです。利用者さんが自分で生活していく上で必要な経験、出来ることが増えるかもしれない大切な機会を奪っていたんだなあと祖父との出来事から学びました。「時間がかかる」と思っているのは私の方で、利用者さんからしたら適正時間なのかもしれません。必要な事を見極め温かい目で見守りたいと思います。

支援員 清田 彩織

### 5班 「ATELIER 5 ～アトリエ ファイブ～」

日中と朝晩の寒暖の差が激しく、洋服の調整が難しい季節になりました。体調を崩しやすくなりますが、風邪を引かないように注意しながら、利用者さん、スタッフ共に元気に楽しく過ごしていけたらと思います。

さて、5班の活動では制作活動が本格化し、前回のTシャツ作りに続いてトートバックにアクリル絵の具で好きな絵や文字を描いてマイエコバックを作りました。プロレスが好きな利用者さんはマスクマンの絵を書いたり、自分のイニシャルをスタンプで押し



たり、果物を筆で描いたりして個性あふれる作品作りがそれぞれできました。また、細かい絵の部分は爪楊枝や綿棒を使用するなどして工夫されていました。出来上がった作品を見て「僕のバックかっこいい」と嬉しそうに言われていました。楽しめる活動として、自己表現の手段として段々レベルアップしているのが目で見えてわかるのは、利用者さん・スタッフともに意欲に繋がります。次回はどのような作品を作るのか楽しみです。

支援員 西本 綾子



# 療育雑記

「読み取る」

事業課長 平川 聖子

「ケース記録（利用者の毎日の生活の記録）は想像ではなく事実を記入するように」。ある時（昔々）、療育課の担当者から申し送りが出されました。どうやら私の記録への指摘だった

ようですが、私は何を指摘されているのかさっぱり分かりませんでした。聞くと、「話し言葉のない利用者さんがいかにも言葉で話したかのように書いてある」とのこと。そういわれてもピンとこないので記録を読み返してみると、確かに書いていました。「私が〇〇と書いて、Eさんが〇〇というので」と。

Eさんは私が初めて担当した利用者さんの一人で、拘りやかたまりが強く、ご飯を食べるのにもお風呂に入るのにも長時間のやり取りや待つ対応が必要な方でした。長時間の関わりの間、誘いかける言葉、本人の気持ちを探る言葉をかけたり、体に

触れて状態を確認したり、動き出したときいきなりきつかけを作ったりとあの手この手を出していくと、Eさんは頷き、首振り、指さし、体を後ろにひねる、いろいろな声色の声などで何かしらの反応をしてくれていて、私の中ではそれが「Eさんが〇〇というので」という話し言葉に置き換わるような表現に映っていたのです。

話し言葉がないと「コミュニケーションが難しい場面はあると思いますが、話し言葉がなくても表現力が豊かで上手に気持ちを伝えられる方、人とのやり取りを楽しめる方もいます。積極的に人に働きかけなくても、仕草や態度で意思を表現している方もいます。日々生活していく中で、利用者さんとスタッフの間、利用者さん同士の関わりがあらゆる場面で繰り広げられているわけですが、その場面ごとに利用者さんの仕草や態度から「今〇〇って言っている」と感じます。それは私の思い込みと違ってしまえばそれまでですが、少しでも利用者さんの気持ちに寄り添った支援をしたいと思う

と、やはり考え、想像してしまっています。

ケース記録に事実を記入するというのは今でも変わらないルールですが、起きた出来事に加えて、背景や要因を考えて書き残すこと、当事者が受けた印象を書き加えることもあってよいのではないのでしょうか。利用者さんに「伝える」「説明する」力に加えて、利用者さんから「聞き取る」「読み取る」力も必要であると思います。



## サービス向上委員会

「新たな取り組み」

主任 森田 康之

当委員会は三気の会を利用する全ての方に対して、より良いサービスを提供できているのかを見直し、検討することを目的として活動しています。そんな

サービス向上委員会ですが、新しいイベントの発案や運営をすることも大事な活動のひとつです。利用者の皆さんの要望を取り入れながら発案、企画を行っています。

昨年度から新たに取り組み始めたイベントを2つご紹介致します。①パジャマでシネマ・夕食後から就寝時間までの余暇時間の充実を図り企画されました。上映する映画、映画のお供など色々なリクエストに答えつつ、皆さんに満足していただけるように実施しています。②eスポーツ・利用者さんの新しい楽しみの提案を目的に毎週金曜日に実施しています。皆さんハイスコアを目指して、頑張られています。また法人内だけでの実施ではなく、他法人の方々とのオンラインでの交流戦も行い、新しい外部との繋がりの場となっています。





# 運動会

「運動会」

支援員 伊藤 愛理

第31回三気の里運動会、今年も無事開催することが出来ました。前日に雨が降るといふ緊急事態もありましたが、当日は見事に晴れて絶好の運動会日和となりました。気持ちの良い青空に利用者の皆さんの元気な掛け声や、明るい笑い声が響きわたります。身体を動かす準備もでき、各団優勝に向けての士気も高まったところで競技スタート！種目は30m走、玉入れ、パン食い競走です。日頃の運動の成果を試す方、「1位をとりたいです！」と意気込む方、パン食い競走が楽しみな方、等等…。参加へのモチベーションは様々ですが、応援団席からの一生懸命な声援を受けて一致団結していく姿は、とても印象的なものでした。スタップアトラクションの綱引きも本勝負では、スタップの皆さんが体を張って頑張っておりました。皆さんとても喜ばれていましたよ！たくさん笑顔が見られた素敵な一日でした。皆さん本当にお疲れ様でした！（今年は無団の優勝でした）



## 相談支援事業

「三人寄れば文殊の知恵」

相談支援専門員 立花 訓子

三気の里の相談員3名は、今年



の7月から10月まで、途中でインフルエンザを挟みながらの研修を、無事に修了する事が出来ました。コロナ禍での集合型研修となりましたが、1日でも欠席すればまた来年やり直しという思いから、ドキドキハラハラの3ヶ月でした。必死の思いで参加した研修会の中身は非常にハードでしたが、今後の相談業務を行う上で自分にとって羅針盤となるようなものを得ることが出来たと思っています。

研修中はグループワークを行う事が多く、自由にアイデアを出し合う中で、自分では考え付かなかった方法がたくさん出て、そこからさらにアイデアが広がっていく様子を何度も体験しました。アイデアを出し尽くした後の最後のひと絞りの中にダイヤの原石のようなアイデアが出てくることもありました。ひとつの問題を仲間と共有し一生懸命考える事はどの職種にとっても必要な事だと思えます。学ぶことに終わりはないと人生の後半戦になって再度教えられた研修でもありました。



# 11月スケジュール

01日(火) わっふるステップアップ講座  
 04日(金) 芸術クラブ・アンパ創作活動  
 08日(火) インフルエンザ予防接種  
 12日(土) 開園記念祭  
 16日(水) 誕生会  
 17日(木) 嘱託医来診  
 18日(金) BeTREEレク・アンパの日  
 eスポーツ  
 19日(土) 陣内食堂

24日(木) 3班レク・三気の会理事会  
 さんきマーケット  
 26日(土) 帰宅実施日  
 パアレントメンター養成研修～27日(日)  
 27日(日) かくたつ研修～29日(火)

毎週月曜日訪問理容サービス  
 BE TREE  
 <営業時間>8:00～18:00



betree314

## 高齢化対策委員会

「急がば回れ」

支援員 高橋 一精

一言で高齢化対策と言っても「介護技術」、「ハード面の整備」、「介護予防・自立支援」、「認知症理解」、「医療連携」、「介護保険制度理解」など重要な要素ばかりですが、当委員会では以下のようなことを今年度のテーマとして、その啓発に取り組んでいます。

日課の中で一例を挙げると、起床時にスタッフが利用者さんの顔を濡れタオルで拭いてあげるとします。そうすることで日課はスムーズに流れ、事故の危険性も下がります。しかし、スタッフが顔を拭くということは、「洗面台の前に立つ」、「袖をまくる」、「蛇口を回す」、「水(お湯)を手のひらですくう」、「顔を洗う」、「タオルで顔を拭く」等、利用者さんから色々な行動を奪ってしまうことになります。その延長線上に何があ

るかは容易に想像できません。朝の洗面は一例ですが、食事、排泄、着替え、入浴：日常生活のあらゆる場面で共通すると思います。

利用者さんの特性はそれぞれ違うため一概には言えませんが、一人ひとりの「自己効力感」を高めるために何が出来るかを考え続けること、それが中長期的には高齢化対策に繋がるものだと信じてこれからも活動していきたいと思えます。



【寄付】

三気の里家族会様  
 井上律子様 金森保様  
 岡崎範子様

【物品】

前淵隆子様 (フラッシング指導)  
 中田康則様 藤原 芙佐子様  
 樺嶋尚志様 菊池フジ子様  
 高村茂子様 岩切美佐子様  
 フアマミリー電器様  
 松村俊介様 上野育夫様  
 今村修一様 井手上昌子様  
 牛島智子様 中嶋久枝様  
 井上律子様 坂田栄子様  
 清田栄一様 渡邊正司様  
 宮本眞一様 櫻木勇夫様  
 魚谷秀文様 田中満子様  
 芹岡隆博様 金森保様

